

## 台風7号に対する農作物等の事後対策について

井笠農業普及指導センター  
備中県民局農林水産事業部農畜産物生産課

本対策と令和5年8月14日付け緊急情報No. 5「台風7号に対する農作物等の緊急技術対策について」を参考に、各地域の被害状況に応じた技術指導をお願いします。

なお、台風通過後における現地の見回りは、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が収まってから行い、2次災害の防止に努めてください。

### 1 水稻

- ・台風通過後は、稲が茎葉の損傷を受け蒸散作用が活発になりやすい。このため、台風通過後も数日間は湛水状態とする。
- ・収穫間近の稲で、倒伏して穂が地面についているものは、穂発芽を防ぐため早期に落水し、株を持ち上げ乾燥を図る。
- ・白葉枯病の発生しやすい地域では、農薬使用基準に従って、直ちに薬剤防除を行う。

### 2 大豆

- ・滞水しているほ場では早急に排水する。
- ・台風通過後に長雨が続く場合は、紫斑病や茎疫病の発生が増加するため、薬剤による防除を行う。

### 3 果樹

- ・停滞水を早急に排水し、根の湿害を防ぐとともに、病害の防除を徹底する。
- ・着果負担を軽減するため、傷ついた果実は枝葉の被害程度に応じて摘果し、成熟した果実は採り遅れないようにする。
- ・倒伏した樹は立て直し、土寄せ・鎮圧した後、支柱を立ててしっかり固定する。
- ・折損した枝は切り直し、切り口には保護剤（トップジンMペーストなど）を塗布する。また、裂けた部分は縄などで縛り癒合を促進する。
- ・落葉が激しい場合は、幹や太い枝に石灰乳等の白塗剤を塗布し、日焼けを防止する。

### 4 野菜

- ・停滞水を早急に排水するとともに、支柱の補修を行い、誘引する。
- ・台風通過後は速やかにべたがけ資材等を除去し、付着した泥は早急に洗い流すとともに、病害防除を徹底する。
- ・果菜類で茎葉の損傷が著しい場合は、果実を被害程度に応じて摘果し、着果負担を軽減する。
- ・株元が露出したり土壌が固まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せを行い、畝全面を軽く中耕して通気性をよくする。

- ・降雨による肥料の流亡が考えられる場合は、速効性の窒素や加里肥料を追肥する。草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や窒素成分を含む葉面散布剤の散布が効果的である。
- ・被害が大きく回復の見込みがない場合は、速やかに代替作物を選定して種子や苗を確保し、植え替え又は播き直しを行う。

## 5 花き

### (1) 施設花き

- ・施設管理については「7 施設管理共通」を参照。

### (2) 露地花き

- ・滞水している場合は、早急に強制排水する。
- ・倒伏した株、特に彼岸出荷用など今後出荷期を迎える品種等は、茎が曲がるため早急に起こし、支柱、ネットを補強する。
- ・根の機能が弱っているため、葉面散布を実施する。
- ・台風通過後は病害が発生しやすいので、付着した泥を洗い流し、損傷した茎葉や花を取り除き、防除を徹底する。

## 6 畜産

### (1) 飼料作物（トウモロコシ、ソルガム）

- ・滞水している場合の早期排水を図る。

#### ① トウモロコシ

- ・倒伏したものは、早めに刈り取りサイレージ調製する。

#### ② ソルガム

- ・台風通過後、生育の悪いものは窒素及び加里各 3～5 kg/10 a を追肥する。
- ・倒伏したものは茎が立ち直るが、収穫期に達しているものは早めに収穫する。
- ・ソルガムの幼植物には青酸含量が多いので、草高 60cm 以上のものを利用する。

### (2) 糞乾燥ハウス

- ・破損した場合は、補修を早急に行う。ビニールが破れて雨水が入った場合は、堆肥舎に移し、オガクズ等で水分調整後、切返しを行い再発酵させる。

## 7 施設管理共通

- ・台風通過後は速やかに換気を行い、温度や湿度の低下に努める。
- ・農作物が損傷を受けた場合、天候の回復を待って、速やかに殺菌剤を散布する。
- ・施設内が浸水、滞水した場合は早急に排水する。